

事業名:	つながるアウトリーチ強化プロジェクト
資金分配団体:	公益社団法人 ユニバーサル志縁センター
実行団体名:	特定非営利活動法人どりいむスイッチ 退所児童等アフターケア事業所カモミール
実施時期:	2021年6月～2022年2月
事業対象地域:	広島県
事業対象者:	児童養護施設等を退所して（おおむね10年以内）、県内に居住又は通勤・通学している方を主な対象としているが、一時的に施設等に入所していた方なども対象として支援する。

進捗報告書（実行団体）

Version 1.0

2021年11月17日

I. 事業概要

事業概要
<p>コロナウイルスの影響によりケアリーバーが困窮した状態に陥るケースが増加していると考えられる。このような状態を打開するためには、「会いに行く支援」「困る前からの支援」を早急に、今より多くの若者へ届ける必要がある。そのため、我々は「つながるアウトリーチ」を実施する。内容は、第一にケアリーバーとつながるための周知活動（関係機関との連携、LINE相談カードの配布）を行う。第二に、つながった若者と信頼関係を構築するための継続的なアウトリーチを実施し、そのための体制づくり（ボランティア養成、研修の実施）を強化する。第三に、若者が困った時に支援できる体制（資金、ネットワーク）を整える。</p>

II. 進捗報告の概要

総括
<p>概ね想定通り進めることができている。「つながる」ということをまずは念頭に、各関係機関にLINE相談カードを持ってあいさつ回りに行った結果、上半期の利用者実人数が、前年度の約2倍となった。カモミールの居場所来所者数とアウトリーチ回数も現在ではほぼ横並びの数になってきている。また、6月半ばからこの事業をはじめ、「困る前から」つながりはじめた子たちが、最近になって少しずつ悩みを打ち明けてくれるようになってきている。このことから「会いに行く支援」「困る前からの支援」を届けられていると考えられる。残りの期間は、今後もこの体制を維持、強化していくための体制づくりとして、ボランティアの養成やネットワークづくりに注力したい。</p>

III. 活動実績

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
<p>若者（特にケアリーバー）が困窮せずに生活できることを目標とする。そのために以下の状態を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.若者が深刻な困窮に陥る前に当団体や社会資源につながるができる 2.若者が継続的に自立生活に必要な支援を受けることができる 3.若者が困ったときに緊急支援を受けることができる 	<ol style="list-style-type: none"> 1.つながった若者の実人数は、36名であった。前年度退所者利用実人数は年間19名であるため、大幅な増加である。各機関への広報が功を奏したと考えられる。 2.半期の中の支援では、生活を立て直すための食料提供がとても有効であったと感じている。食料提供でつながって信頼関係を構築し、相談が始まるケースが増えてきている。 3.10月末時点9名に対して延べ48回の緊急対応を実施した。金銭トラブルや住居喪失、コロナによる隔離生活などへの支援を行った。

①カモミール利用実人数【目標：35名】	①36名
②LINE利用回数【目標：月60回】	②5か月で延べ370回
③アウトリーチ実施回数【目標：月10回】	③5か月で延べ109回
④緊急対応実施回数【目標：4人×20回】	④5か月で8人に対して延べ40回
⑤支援機関との連携回数【目標：月20回】	⑤5か月で延べ218回
⑥ボランティア登録者数【目標：2名】	⑥0名（1月より活動開始予定）
⑦研修参加者数【目標：のべ50名】	⑦62名（11月も実施予定）

活動	進捗状況	概要
①行政、支援機関などへの広報（訪問件数） ②関係機関との情報共有 ③LINE相談カードの作成、配布 ④県内関係機関を対象とした連携体制づくりの研修 ⑤アウトリーチの実施 ⑥ボランティアの養成研修 ⑦ボランティア活動 ⑧SVの実施 ⑨緊急対応の実施	計画通り実施	①33団体へ広報を実施 ②139回個人に関する情報共有を実施 ③6月に作成配布を実施 ④9月に実施 ⑤6月から実施 ⑥10.11月に実施 ⑦12月に見学、1月より実施 ⑧実施中（3回終了済み） ⑨6月から実施

IV. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

自由記述
<p>若者（特にケアリーバー）が困窮せずに生活できることを1年以降の目標として掲げている。昨年度と比べ、つながる若者の人数は各段に増加している。加えて、食料支援や緊急支援など「お金がかかる支援」をお金の心配をすることなく実施できることで、アプローチの幅も広がっている。この結果、困ることがあっても、困窮する前に支援することは概ねできていると考える。一方、困った時に「困っている」と大人に言える関係がすぐにできるわけではないというのも痛感している。関係づくりには時間がかかるため、今後このような活動を継続的に実施できる土台作りが課題である。</p>

V. インプット

		2021年度	執行金額	執行率
事業費	直接事業費	¥1,429,000	¥382,192	26.75%
	管理的経費	¥198,000	¥74,743	37.75%
合計		¥1,627,000	¥456,935	28.08%

補足説明	<ul style="list-style-type: none"> ・講師謝礼など高額支出は11月以降予定 ・デザイン料の不使用など大幅な変更もあるため、科目変更手続きを申請中
------	---

VI. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応

児童養護施設や里親との連携が重要であると考えているが、コロナ禍のため訪問して説明をすることができないことも多かった。コロナも収まりつつある今こそ再度広報活動を強化し、次年度退所者と今からつながりはじめることに注力したい。

VII. その他

自由記述

特になし

VIII. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	無	
広報制作物等	有	・LINE 相談カード ・つながるアウトリーチチラシ ・ボランティア養成講座チラシ ・神奈川モデルを参考にアフターケアを考えるチラシ
報告書等	無	

IX. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	JANPIA の外部通報窓口を職員に周知した